鶏肉の出ない食卓

温かいお茶（ペンネーム）　（福島県　四十代）

私が育った家庭は三世代七人家族だった。我が家では鶏肉料理が食卓に並ぶことはなかった。理由は祖父が鶏肉嫌いだったからだ。だから、お弁当もクリスマスも鶏肉料理の出番はなかった。その後、大学二年生の夏に祖父が急逝した。葬儀を終え、寂しい気持ちを抱えたまま家に戻った頃には夕食の時間になっていた。その食卓には何と鶏の唐揚げが堂々と鎮座していた。母は「お爺ちゃん、ずっと孫たちに鶏肉を食べさせてあげられなくて申し訳ないって言っていたのよ。まだ近くに居るだろうから皆で唐揚げを食べて安心させてあげよう。」と言った。私は祖母に尋ねた。

「なんでお爺ちゃんは鶏肉が嫌いだったの？」すると祖母は祖父が戦争に行ったときの話を始めた。「お爺ちゃんが南方へ出征した頃は戦況が厳しくなっていて、現地の村から鶏を盗んでよく食料にしていたの。でも不衛生だったから腐った鶏肉を食べて体調を崩し、それが原因で感染症が悪化して亡くなっていく戦友を何人も看取ったらしいの。だからお爺ちゃんにとって鶏肉は戦争の味そのものだったのよ。」その時、祖父が鶏肉を食べられなかったのは戦争のトラウマが原因だと初めて知った。あの穏やかな祖父が一生背負い続けた戦友への想いを考えるとやりきれない気持ちになった。今から思えば太平洋戦争に関する本を熱心に読んだり、戦友だった人と文通をしたり、祖父は戦争と生涯向き合い続

けていたように思う。戦争を知り、戦友と交流することで心の傷を癒やしていたのかもしれない。今、この瞬間にも戦争によって祖父のように一生癒えない心身の傷を負い、命を奪われている現実を思うと様々な感情が入り交じった複雑な気持ちになる。もうこれ以上我が家のような鶏肉の出ない食卓を生まないためにも一日でも早く、一人でも多くの命が安心して過ごせる平和な世の中になってほしいと心から願って止まない。

（特別編　優秀賞）